

ちかいのうた

(重誓掲の意識)

われ世に超えし願をたて
たぐいなき道さとらなん
このねがいもしみたざれば
誓いてさとりえざらまし
われはてしなき末かけて
大きめぐみの主となり
貧しき群を救わずば
誓いてさとりえざらまし
われ仏の道さとりえば
その名は十方にきこえなん
もし至るべきめいひ
誓いてさとりえざらまし
けがれをのぞき正念と
智慧もてきよき行おさめ
ほとけの道にささげてぞ
世のもろびとの師とならん

不思議の力ががやきて
あまなく闇の世をてらす
欲といかりとおろかさの
わざわい永遠に除かなん
智慧のまなこをひらきては
めしいの闇をうちやぶり
よこしまの道たらふさぎ
よきくにの門に入らしめん
いさおみちたりみほとけの
さとり開かんそのときぞ
みいずは十方にかがやきて
月日もために隠れなん
法の蔵を開きては
功德の宝ほどこして
つねに群れいる人々に
獅子吼ゆるごと法とかん
よるずの仏をたたえつつ
すべての徳のもとそなえ
ねがいも智慧も満ちみちて
世にたぐいなき雄者たらん

師のみほとけの無碍の智慧
照らさぬくまのなきがごと
わがいさおしの力また
このみほとけにかよわん
ああこの願い遂ぐべくば
あめつちためにうちふるい
天つもろびと虚空より
妙なる花をふらさなん

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南
如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
ほねをくだきても謝すべし
ほとけのみ名を聞きひらき
こよなき信をめぐまれて
よろこぶごころ身に得れば
さとりかならずさだまらん